

平成29年度 学校評価アンケート結果

12月に実施しました学校評価アンケートの結果を保護者アンケートの回答と3年生以上の児童の生活アンケート、及び学校職員の自己評価を比較しながら分析いたしました。学校経営における3本の柱（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を中心に学校経営や地域連携等について、今年度、特に大切にできなかったことや課題としたいこと等について、成果と課題の両面から記述してあります。様々なご意見や集計結果を客観的にとらえ、次年度に活かしていきたいと考えています。

<表の見方>

- ・数字は、5点を最高点とした評価得点の平均値と今年度と昨年度の差です
- ・平均が4.5以上を評価が高いと捉え青字で、4.0未満を課題と捉え赤字で記しました。
- ・前年度に比べ上昇した項目を青字で、その中でも0.1ポイント以上上昇したものを青の太字で、昨年度に比べ下降したものを赤字で、その中でも0.1ポイント以上下降したものを赤の太字で記しました。

1 学校教育目標・学校経営に関わって

(1) 学校教育目標の具現に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.47	4.41	0.06
児童	・楽しく学校生活を送ることができていますか。	4.77	4.69	0.08
	・学校や学級をよくするためにみんなで仲良く協力して何かをやりとげ、うれしかったことはありますか。	4.81	4.78	0.03
職員	・学校教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.73	4.45	0.28

職員、児童、保護者ともに昨年度に引き続き数値が向上しており、非常に高い評価になっています。「出し切る」の合い言葉のもと、やりきった体験ができたと感じていると思われます。「学校は楽しくない」と回答した児童は一人もいません。本校が昨年度から大切にして取り組んできた「自分を出し切り笑顔いっぱいの学校」に向けて今年度も一層推進できたと考えています。

(2) 指導の方法に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校職員は子どもたちに寄り添い、一人一人と関わるなど互いに協力し合い、一丸となって子どもたちを育てようとしている。	4.41	4.54	-0.13
児童	・失敗を恐れず挑戦し自分の力を出しきることができましたか。	4.58	4.42	0.16
	・時間を守る、正しく廊下を歩く、トイレのスリッパをそろえる等学校のきまりを守って生活できていますか。	4.21	3.93	0.28
職員	・児童・保護者に寄り添い、全校一人一人の児童と関わる等、教職員が協力し合い、一丸となって子ども達を育てようとしている。	4.82	4.73	0.09

「出し切る」ことの大切さ、尊さは児童にもしっかり定着していることが高い評価から伝わってきます。また、職員の評価から全職員が一枚岩になって子どもたちに接しているという自負が見受けられます。全職員が一枚岩となって全教育活動で「出し切る」ことの素晴らしさを指導し続けた成果が表れています。昨年度評価が低かった、児童の「きまりを守って生活している」意識は向上しています。今後も全職員が引き続き、一枚岩となって、良いことは褒め、間違ったことに対しては毅然とした態度で指導を徹底させていきたいです。

2 確かな学力に関わって

(1) 授業に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、分かりやすい授業作りに心がけ、子どもたちに基礎的、基本的な確かな学力を身につけさせようと努力している。	4.41	4.43	-0.02
	・子どもは、授業が楽しい、分かりやすいと感じている。	4.17	4.20	-0.03
児童	・自分の考えをしっかりと、ハッキリと仲間に伝えることができましたか。	4.42	4.54	-0.12
	・話をしっかりと聞き、頷いたりハンドサインを使ったり反応できましたか。	4.40	4.47	-0.07
	・ていねいな字で、自分の考えをノートに書いていますか。	4.00	4.00	0.00
	・授業の中でわかったこと、できるようになったことが増えましたか。	4.83	4.69	0.14
	・授業はわかりやすく、楽しいですか。	4.54	4.59	-0.05
職員	・日々の授業を仕組むに当たり、1日の内1時間でも教材研究を行い授業に臨んでいる。	4.27	4.36	-0.09
	・子どもは授業が楽しい、わかりやすいと感じている。	3.91	3.82	0.09

児童は授業でわかったこと、できることが増え、分かりやすく楽しいと感じています。こうした意識は今後も大切にしたいです。しかし、今年度の重点としていた「自己表現」にかかわる「仲間に伝える」や「ハンドサインでの反応」については児童の評価では成果がでていません。職員もそのことを自覚していることが評価にあらわれています。来年度は大きな大会が控えています。授業に「これによし」はありません。職員自身が納得できる授業を目指し更に研鑽を積んでいきたいです。

(2) 読書に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・子どもは、日常の読書活動を通して本の楽しさを味わっている。	3.85	4.15	-0.30
児童	・読書は楽しいですか。自分から本をたくさん読むことはできましたか。	4.40	4.47	-0.07
職員	・朝読書や日頃の読書活動を通して本の楽しさを味わわせている	3.91	4.09	-0.18

昨年度開催された図書館サミットに向けて図書館教育の充実を数年前から進めてきましたが、サミット終了後の今年度は保護者、児童、職員とも評価が下がりました。サミット終了後も継続して読書活動の充実を努めていきたいです。

(3) 家庭学習に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校と家庭が連携し進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせている。	3.85	4.08	-0.23
児童	・家では宿題や自主学習など、言われなくても自分から取り組んでいますか。	4.36	4.17	0.19
職員	・家庭と連携し、進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせている。	4.00	3.91	0.09

家庭学習については昨年度も課題の一つでした。今年度の児童のアンケートでは家庭学習時間は昨年度に比べ大きな変化はありませんでした。確かな学力の定着のため家庭学習の充実は不可欠ですが、本校では満足できる状態ではありません。保護者も職員は危機感を感じていることが評価から伝わってきます。家庭学習の充実が引き続き本校の課題の一つです。

3 豊かな心に関わって

(1) 笑顔になれる言葉がけに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、子どもが笑顔になれるように言葉がけや働きかけなど、指導の工夫に努めている。	4.34	4.41	-0.07
児童	・自分から進んであいさつをしたり、ありがとうの言葉が言えたりしましたか（先生・友だち・家族・地域の人）。	4.81	4.73	0.08
職員	・笑顔になれる言葉を広げるように指導の工夫に努めている。	4.45	4.18	0.27

自分たちの自慢は何かと問うと多くの児童が「あいさつ」と答えます。そのことは高い評価にも表れています。更に保護者や地域の方にも認めていただけるよう、職員は児童にとって最も身近な存在であるとの意識を持ち、率先してあいさつや笑顔になれる言葉がけ、その値打ちについて語るように心がけていきます。

(2) 正しい言葉遣い・礼儀正しさに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、正しい言葉づかいができるようになることや礼儀正しくふるまえるようになることにこだわった指導をしている。	3.76	3.87	-0.11
児童	・呼び捨てはせず、友だちとていねいな言葉や温かい言葉でやりとりができましたか。	4.11	4.31	-0.20
	・いじめはどんな理由があっても、やってはいけないことだと思いますか。	4.96	4.93	0.03
職員	・礼儀正しさにこだわるとともに、正しい言葉遣いができるように教師も子どももこだわっている。	4.00	3.55	0.45

正しい言葉遣い・礼儀正しさについては保護者、児童、職員とも評価が低いです。「あいさつ」は自慢ですが「正しい言葉遣い・礼儀正しさ」については課題の一つと捉えたいです。正しい言葉遣いや礼儀正しさは大人が教えるものです。人権教育の観点から引き続き継続的な指導をしていき、名前を呼び捨てしない指導や正しい言葉遣いを全職員が一丸となって行うことにより、改善していきたいです。

4 健やかな体に関わって

(1) 遊びを創造する力に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、遊びの楽しさや友だちと関わって遊ぶことの楽しさを味わえるように、遊びを創造する力をつけるように努めている。	4.21	4.34	-0.13
児童	・晴れた休み時間には外へ行き、友だちと楽しく元気いっぱい遊んだり運動に取り組んだりできましたか。	4.55	4.32	0.23
職員	・遊びの楽しさや友達と関わって遊ぶことの楽しさを味わえるように、遊びを創造する力をつけるように努めている。	4.27	4.09	0.18

そうじなしの日を1日増やし、ロング昼休みを増やして2年目。今年度はそうした時間を利用して「全校遊び」を増やしました。児童会活動の一環としてロング昼休みの使い方を再考した結果です。そうした取組が児童の評価に表れていると思われまます。今後も、外遊びを集団作りの一つとして大切に、仲間関係を醸成する場として位置づけた指導を心がけていきたいです。

(2) 基本的な生活習慣に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、子どもに対して生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯・排便等）の重要性が認識できるように努めている。	4.10	4.05	0.05
児童	・一日を元気に過ごすために、早ね・早起き・朝ご飯、トイレができましたか。	4.34	4.07	0.27
	・テレビやゲームは時間を決めてやっていますか。	3.96	3.44	0.52
職員	・児童に対して生活習慣の重要性が認識できるよう指導に努めている。	4.18	3.82	0.36

全体的に評価が高い訳ではありませんが、昨年度に比べて上がっています。情報モラルについては今年度、児童と保護者を対象に初めて「情報モラル研修」を実施しました。また、生活習慣に関しては、昨年度から長期休業明けに「生活リズムチェック」を実施しています。こうした取組の成果が少しずつ評価に表れていると思われます。とはいえ、児童の「テレビやゲームの時間を決めてやっている」については児童のアンケートの中では一番評価の低かった項目です。今後も、家庭との連携をさらに強めて情報モラルや生活習慣の定着を推進していく必要があると考えています。

5 その他(地域との連携、個別支援など)

(1) 心配な児童に対する対応に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、健康面（体調不良など）で心配な児童、生活面で心配な児童、または継続的にケアが必要と思われる児童に対して保護者と連絡を取り、綿密な連携の中で指導を行うよう努めている。	4.19	4.42	-0.23
	・困ったことや悩み事があったとき、学校は相談しやすく親身になって聞いてくれる。	4.09	4.22	-0.13
児童	・相談や悩みなどがあるときは、先生や友だち、親に相談することができていますか。	4.40	4.27	0.13
	・学校の先生は困ったときに相談すると、しっかりと聞いてすぐに助けてくれますか。	4.81	4.66	0.15
	・学校の先生はがんばったことや良いことはほめて、まちがったことはしっかりと叱ってくれますか。	4.96	4.78	0.18
職員	・問題行動や心配な言動、体調不良等の児童、または継続的にケアが必要と思われる児童保護者と連絡を取り、保護者との綿密な連携の元指導を行うよう努めた。	4.36	4.09	0.27

児童の職員に対する信頼感はとても高いです。継続できるようにしたいですし、保護者からも更に信頼されるようにしたいです。今年度、これまでに（2学期終了時）85人全員が登校できた日が62日ありました（昨年度は年間で44日）。こうした状況が継続ができるよう家庭とも連携し職員が一丸となって取り組みたいです。

(2) 地域の人材活用に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H29	H28	H29-H28
保護者	・学校は、生活科・総合的な学習の時間（ふるさと学習）等で地域の人材（学習支援者・ゲストティーチャー）を効果的に活用し、授業を仕組むよう努めている。	4.40	4.38	0.02
職員	・生活科・総合的な学習の時間やふるさと活動等での地域の人材（学習活動支援者・ゲストティーチャー）を効果的に活用し授業を仕組むよう努めた。	4.45	4.09	0.36

本校は総合的な学習の時間等で積極的に地域の人材を活用をしています。そのことについては保護者も職員も実感しているようです。FBCの取組を始めた昨年度から「花作り」や「土づくり」を通して新たな人材も学校の活動に協力していただいています。今後も地域の人材を意識的に活用し、ふるさとに根ざした教育を推進していきたいです。

<総括>

○本校の児童は学校を楽しんでいると感じ、「出し切る」の合い言葉のもと、やりきった体験ができたと感じていると思われる。また、授業に対しても充実感をもっている。保護者も同様に感じている。これは職員が一枚岩になって取り組んできた成果である。

●授業の質は着実に向上しているが、全教育活動を通して更に「自己表現力」を高めていきたい。

●情報モラル教育、基本的な生活習慣の定着については改善が見られるものの、家庭学習や言葉遣い・礼儀正しさなどとともに充実がより一層求められている。学校内だけでの取り組みでは成果が上がり辛いものもあるので、学校・家庭・地域がより密に連携して取り組んでいかなければならない。